

## 相談支援事業所 相談に関する報告(平成31年2月～令和元年5月)

<支援に困難を感じた事例>…困難の要因となっている事実及び事例、相談の傾向

<地域課題>…報告期間に感じた地域課題

### 【春日苑】

<p>&lt;支援に困難を感じた事例&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に複数回居宅介護事業所を変更している男性の方から支援調整の相談があった際に困難を生じた。サービス以外の要望があったり支援者を(30代女性などに)限定されるなどがあり、新たに紹介できる居宅介護事業所の範囲が狭まってしまうことで、対応に苦慮することがある。</li> <li>・本人、家族からの計画相談の依頼があり、事業所の特色や計画の作成状況など細かく聞かれることがあり困ることがあった。</li> <li>・相談の傾向として、身体分野が主な相談内容であるが、分野の違う相談ケースが多くなってきている。</li> </ul>
<p>&lt;地域課題&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護は、個別の対応が基本となるため、日頃から居宅介護事業所間の情報や課題共有・研修会・支援統一の場があると、より一層連携が図りやすくなると感じる。</li> <li>・利用者が障がい福祉サービスの支援内容を正しく理解するために、サービス内容が分かるガイドブックや利用者用Q&amp;Aがあるとよい。</li> <li>・相談支援事業所同士の交流が少なく、限られた範囲での連携となっているため、個々の相談支援事業所がどの分野に強いのかなど事業所の状況も分かりづらい。事業所によっては、利用者が困っていたとしてもどこへサポートを頼めばよいのか迷ってしまうことがある。そのため、各福祉事業所と相談事業所がより気軽に相談できるつながりをもてる環境整備が必要である。</li> </ul>

### 【かすがい】

<p>&lt;支援に困難を感じた事例&gt;</p>	<p>【特別支援学校卒業後の進路について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の進路については学校主体で高等部2年生から進路先を見極めるために産業現場実習が実施されている。高等部卒業前には大半の生徒が次の進路が決定しているが数名の生徒は問題行動が周囲に悪影響を及ぼすとの理由から通所を断られるケースがあり3月になっても進路が決まらず困った。</li> <li>・保護者の協力が得られないことを理由に断られるケースも出てきており、卒業後も進路が決まらない状況が発生した。</li> </ul>
<p>&lt;地域課題&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強度行動障がい者等が通所できる事業所の不足。(人材の育成や環境整備など。)</li> <li>・障がい福祉サービス等の利用する側に対して必要な協力体制の確認等事前に明確にし、事業所との利用者及び家族の相互理解とることが必要。</li> </ul>

## 相談支援事業所 相談に関する報告(平成31年2月～令和元年5月)

<支援に困難を感じた事例>…困難の要因となっている事実及び事例、相談の傾向

<地域課題>…報告期間に感じた地域課題

### 【JHNまある】

<p>&lt;支援に困難を感じた事例&gt;</p>	<p>・新規相談に繋がるケースの中に、最近ではサービス利用計画作成が必要になるケースも多くある。またすでに通所や居宅介護のサービスを利用している人たちに市役所からの障がい福祉サービス受給者証や通所受給者証の更新案内で計画相談について知り、計画作成の依頼になるケースもある。更新案内が届く時期は重なってしまうため、依頼も集中してしまう傾向が見受けられる。</p> <p>・月に1～2件の依頼であれば、事業所としても快諾しやすいが、1日に10件の計画作成依頼が入ったこともあり面接・訪問の予定を組むのも難しくなっている。</p>
<p>&lt;地域課題&gt;</p>	<p>・委託の支援センターはもちろんのこと全ての計画事業所が計画作成率について共通認識を持ち、情報共有を行った上で、計画義務化における進捗管理を確実に進める必要がある。</p>

### 【あっとわん】

<p>&lt;支援に困難を感じた事例&gt;</p>	<p>家庭内での子ども対応は保護者が担う事として、福祉サービスの育児支援を利用することが難しい。子育て支援としても、家の中に介入できるサービス等がなく、対応に苦慮する相談内容である。</p> <p>【保護者が家の中で子どもの対応に困っているケース】</p> <p>・保護者から、「発達障がいの診断を受けている小学生の子どものお癪が激しく、家族全員が疲弊している。」という相談があった。病院、児童相談センター、放課後等デイサービスなどからのアドバイスを受けて、保護者なりに対応しているが状況は改善しない様子であった。保護者としては、一時保護や治療入院の利用はせず、自宅でできるだけ対応したいため、一時的にでも第三者として家の中に介入してくれるような機関を求めている。</p>
<p>&lt;地域課題&gt;</p>	<p>・保護者が家の中で支援を必要としている場合、介入できるサービスや機関がない。</p> <p>・保護者が、子どもの障がいについて理解したり、関わり方を学べる機会が少ない。</p>

## 相談支援事業所 相談に関する報告(平成31年2月～令和元年5月)

<支援に困難を感じた事例>…困難の要因となっている事実及び事例、相談の傾向

<地域課題>…報告期間に感じた地域課題

### 【しゃきょう】

<p>&lt;支援に困難を感じた事例&gt;</p>	<p><b>【ひきこもり者を抱える世帯の支援に関する事例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親の高齢化に伴い、40歳以上の経済力の乏しい子を抱える世帯に関する相談が増加している。これらの場合、子が過去に精神科の受診歴や、暴力やコミュニケーションの拒否などの行動が現れることが多いことから、精神障がい者の支援として相談に持ち込まれることが大半である。</li> <li>・ひきこもり者に対する支援は地域内に担い手が少なく、年齢によっては支援の対象とならない場合もあることから、結果として支援センター内で抱え込んでしまうケースが増えている。</li> </ul>
<p>&lt;地域課題&gt;</p>	<p>ひきこもり者への支援は障がい者支援の一環として行うのではなく、ひきこもり者への支援の分野として、幅広い世代に対応した専門の支援機関を立ち上げるべきである。</p>